

## ハーバリウム霧多布と特別展「あなたの知らないスゲの世界」

加藤ゆき恵\*

「ハーバリウム霧多布」は霧多布湿原センターで2011年から開催されている浜中町のフロラ（植物相）調査で、釧路市立博物館は2013年から参画している。霧多布湿原を有する浜中町ではこれまでに800種類の植物が確認されているが、その証拠となる標本がないことから、植物標本を作成して標本庫=ハーバリウム（Herbarium）を作ろうという取り組みである。4月～12月まで毎月1回開催し、10月頃までは湿原や森を歩きながら植物を採集し、腊葉標本（押し葉標本）を作成する。晩秋以降はその年に採った標本を整理し、ラベル作成や台紙への貼付作業を行なう。ハーバリウム霧多布の成果は、2018年に発行された『霧多布湿原生きものリスト2018』（特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト 2018）にも反映されている。



ハーバリウム霧多布：野外でつる植物を採集

ハーバリウム霧多布では可能な限り重複標本を作成し、そのうちの1組を釧路市立博物館にも収蔵している。フロラ調査の証拠標本としての役割のほかに、釧路地方でふつうに見られる植物がひと通り揃っているの、展示をはじめとする教育普及活動の際にも役に立っている。

余談になるが、ハーバリウム霧多布の開始から数年後、ドライフラワーをオイル漬けにしたいわ

\* 釧路市立博物館

ゆる「ハーバリウム」が急激に普及し、雑貨作りと思った人からの申し込みや問い合わせが何度もあったそうである。ここ数年でハーバリウムという学術的な一般名詞が、特定のものを指す固有名詞として定着してしまったことは残念に思う。



ハーバリウム霧多布：室内で標本作製

ハーバリウム霧多布特別展「あなたの知らないスゲの世界」は、ハーバリウム霧多布で作成した標本活用の一例である。植物の知識が豊富でイラストを描く松下（宮野）和江氏から「こんな絵を描いてみた」と、カブスゲのキャラクター素案を見せられたことがきっかけとなり、霧多布湿原センターの辻ねむ氏と3人で展示を作ろうと盛り上がった。スゲ（カヤツリグサ科スゲ属植物）は同定のキーとなる特徴が分かりづらい上、種数が非常に多い分類群で、とっつきにくい植物である。筆者がスゲの生育環境や見た目の特徴・雰囲気からキャラクターのイメージを膨らませ、松下氏と実際のスゲを見ながら「ヒメウシオスゲはサブカル女子」、「サヤスゲは新入社員」などとキャラ付けをしていった（なぜ新入社員と思ったのかは思い出せないが、現場で意見が一致したことは覚えている）。キャラクターを作りながら、一見とっつきにくいスゲを身近に感じてもらえるように、スゲを使った工芸品や、範囲をスゲ属以外のカヤ

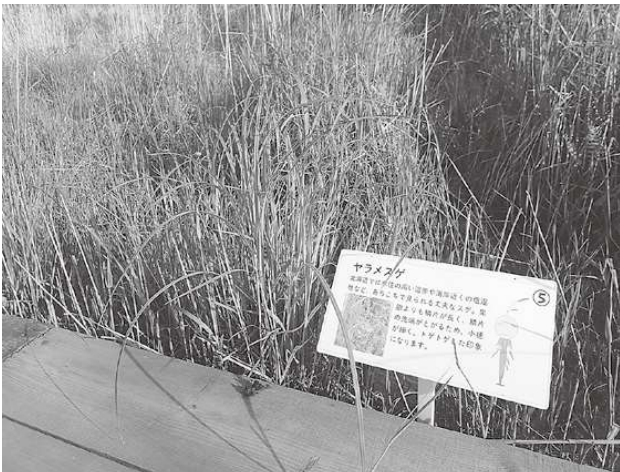
ツリゲサ科にも広げて古代紙パピルス(カミガヤツリ)、漢方に使われるハマスゲなどを紹介することにした。

2018年2月に霧多布湿原センターでミニ展示を行い、6月～7月に本展示を開催した。



霧多布湿原センターでの展示風景

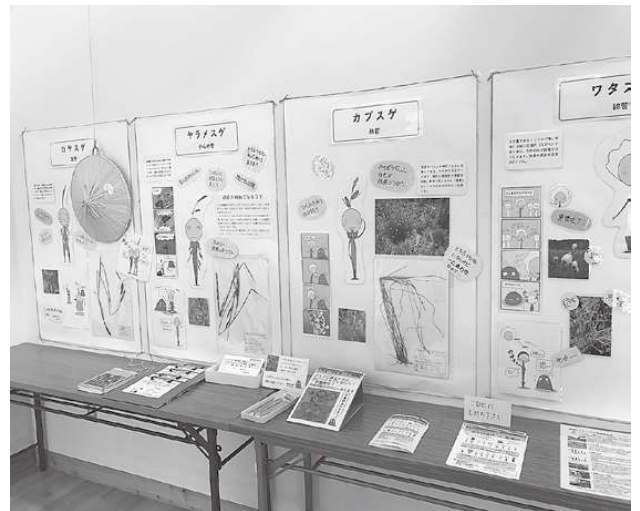
湿原に面したビジターセンターである点を活かし、周辺の散策路で見られるスゲにも看板を設置して、実物を探してもらいやすくした。



湿原センター周辺に看板を設置

展示は予想以上に好評で、巡回して欲しいという意見があったことから、貸し出し対応できるように展示物をラミネート加工してファイルにまとめた。

2019年には網走市の濤沸湖水鳥・湿地センターで展示を行なう機会を得て、松下氏によって開催地に合わせた展示が作られた。



濤沸湖水鳥・湿地センターでの展示

その後、2020年2月には釧路市立博物館で展示を行うことになった。



釧路市立博物館での展示

難しいことは置いておいて、まずはスゲを知ってもらい、身近に感じてもらうきっかけとして、とても面白い展示になったと感じている。今後も楽しくスゲの世界を展開していきたい。

#### 引用文献

特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト. 2018. 霧多布湿原生きものリスト2018. 特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト, 浜中.